

国際農業研究協議グループ（CGIAR）の概要

平成19年1月
外務省多国間協力課

1. 名称

国際農業研究協議グループ

(Consultative Group on International Agricultural Research: CGIAR)

2. 設立経緯及び目的

(1) 設立経緯

1971年5月、ワシントンにおいて世界銀行、国連食糧農業機関（FAO）及び国連開発計画（UNDP）を発起機関とし、我が国を含む先進16か国、地域開発銀行、途上国農業研究支援に実績を有する民間財団等の参加の下、CGIARの設立が決定された。

(2) 目的

国際農林水産研究に対する長期的かつ組織的支援を通じて、開発途上国における食糧増産、農林水産業の持続可能な生産性改善により住民の福祉向上を図ること。

3. 組織

(1) 拠出国・機関

日、米、英、加、仏、独、豪、伊等47か国の他、世銀、UNDP、FAO、アジア開発銀行（ADB）、国際農業開発基金（IFAD）等13の国際・地域機関及びロックフェラー財団等4財団。

(2) 研究センター

CGIARの下で国際農林水産研究を実施する15の研究センターがあり、それぞれ独立した機関として活動している。所長（Director General）以下国際採用職員、現地採用職員により構成されている。

総職員数：7,874人（うち国際採用職員1,100名（うち日本人22名））

(3) 議長（Chair）

CGIARを対外的に代表するとともに、年次総会及び執行理事会を主宰する。世銀総裁がメンバーの同意を得て任命する。

議長：Katherine Sierra

（世銀副総裁（持続可能な開発担当）、米国出身、2006年9月～）

(4) 事務局

世銀本部（ワシントン）内にあり、グループ全体に係る業務について議長を補佐するとともに、メンバーとセンターとの間の業務調整、各種調査、その他グループ全体の円滑な管理運営のための業務を実施する。

事務局長（Director）：Francisco J. B. Reifschneider

（ブラジル出身、2001年2月～）

(5) 主な意思決定機関

(イ) 年次総会（AGM：Annual General Meeting）

年1回開催。全メンバーが参加し、CGIARの活動に係る戦略的課題について討議し、

事業に関する各種決定及び事業実施状況に関するレビューを行う。

(ロ) 執行理事会 (ExCo : Executive Council)

年 2 回開催。主要課題について意思決定を円滑に進めるため、年次総会で議論する前に、少数の国・機関で討議、勧告を行う。また、年次総会の決議事項のフォローアップを行う (我が国は 2002 年～2004 年に執行理事を務めている)。

(ハ) 科学理事会 (SC : Science Council)

主に技術的見地から、センター横断的な研究課題や各センターの活動の評価、勧告を行う。議長ほか 6 名の委員で構成。事務局は FAO 本部 (ローマ) 内にある。

議長 : Roelof Rabbinge (オランダ出身、ワーヘニンゲン大学教授、2007 年 1 月～)

(ニ) 各センターの理事会 (Board of Trustees, Board of Governors)

15 の研究センターがそれぞれ 10～15 名程度の理事 (個人資格) で構成する理事会を設け、センターの予算等重要事項に関する各種決定を行っている。

4. 資金規模 (2005 年度)

収入	460 百万ドル	(うち拠出金 450 百万ドル)	
支出	452 百万ドル	地域別比率	分野別比率
		サブサハラ・アフリカ 46%	持続可能な生産 33%
		アジア 30%	品種改善 17%
		中南米 14%	生物多様性保護 12%
		西アジア・北アフリカ 10%	政策改善 18%
		途上国研究機関の強化 20%	

5. 我が国及び主要国・機関の拠出状況

(1) 我が国の拠出額 (単位 : 千円、%)

平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
1,889,000 (▲47.8)	1,541,200 (▲18.4)	1,378,080 (▲10.0)	1,100,000 (▲20.7)	880,000 (▲20.0)

注 1 : () は対前年度比。

注 2 : 外務省計上分のみ (農林水産省も別途拠出)。

(2) 上位 5 か国・機関の拠出状況 (単位 : 百万ドル、%)

2003 年度			2004 年度			2005 年度		
1	米国	55.5 (14.7)	1	米国	54.2 (12.4)	1	米国	54.8 (13.7)
2	世銀	50.0 (13.1)	2	世銀	50.0 (11.4)	2	世銀	50.0 (11.1)
3	EC	27.2 (7.1)	3	英国	35.3 (8.1)	3	英国	44.2 (9.8)
4	英国	26.4 (6.9)	4	加	32.5 (7.4)	4	加	36.4 (8.1)
5	加	20.9 (5.5)	5	EC	26.3 (6.0)	5	EC	30.6 (6.8)
:	:	:	:	:	:	:	:	:
8	日本	15.0 (3.9)	10	日本	14.4 (3.3)	11	日本	10.9 (2.4)

注 : () は構成比。

6. 各研究センターの概要

名称	主な研究対象	本部所在地	所長（出身国）
国際生物多様性センター (Bioversity International)	動植物の遺伝資源	イタリア (ローマ)	Emile A. Frison (ベルギー)
国際熱帯農業研究センター (CIAT)	豆類、キャッサバ、稲、 熱帯放牧	コロンビア (カリ)	Joachim Voss (カナダ)
国際林業研究センター (CIFOR)	持続的森林管理	インドネシア (ボゴール)	Frances Seymour (米国)
国際トウモロコシ・小麦改良センター (CIMMYT)	トウモロコシ・小麦	メキシコ (エルバタン)	岩永 勝 (日本)
国際馬鈴薯センター (CIP)	芋類	ペルー (リマ)	Pamela K. Anderson (米国)
国際乾燥地農業研究センター (ICARDA)	大麦、ヒヨコマメ、ヒラマ メ、牧草、家畜	シリア (アレクソ)	Mahamoud M. B. El-Solh (レバノン)
世界アグロフォレストリーセンター (ICRAF, World Agroforestry Centre)	多目的樹木改良	ケニア (ナイロビ)	Dennis P. Garrity (ケニア)
国際半乾燥熱帯作物研究所 (ICRISAT)	トウモロコシ、ヒヨコマメ、落 花生	インド (ハタンチェル)	William D. Dar (フィリピン)
国際食糧政策研究所 (IFPRI)	食糧政策、農業開 発関連社会経済	米国 (ワシントン)	Joachim von Braun (ドイツ)
国際熱帯農業研究所 (IITA)	大豆、トウモロコシ、キャ ッサバ、ヤム芋	ナイジェリア (イバダ)	Peter Hartmann (米国)
国際畜産研究所 (ILRI)	家畜疾病、牧草	ケニア (ナイロビ)	Carlos Seré (ウルグアイ)
国際稲研究所 (IRRI)	稲	フィリピン (ロスバニヨス)	Robert S. Zeigler (米国)
国際水管理研究所 (IWMI)	かんがい、水資源 管理	スリランカ (コロンボ)	Frank Rijsberman (オランダ)
アフリカ稲センター (Africa Rice Center, WARDA)	稲	ベナン (コトヌ)	Papa Abdoulaye Seck (セネガル)
世界魚類センター (WorldFish Center)	持続的水生生物管 理、内水養殖	マレーシア (ペナン)	Stephen J. Hall (豪州)

CIAT: Centro Internacional de Agricultura Tropical

CIFOR: Center for International Forestry Research

CIMMYT: Centro Internacional de Mejoramiento de Maiz y Trigo

CIP: Centro Internacional de la Papa

ICARDA: International Center for Agricultural Research in the Dry Area

ICRISAT: International Crops Research Institute for the Semi-Arid Tropics

IFPRI: International Food Policy Research Institute

IITA: International Institute of Tropical Agriculture

ILRI: International Livestock Research Institute

IRRI: International Rice Research Institute

IWMI: International Water Management Institute